

- 問1 12世紀後半、日宋貿易によって中国との交流が盛んになる中で、僧の栄西が宋から伝えた仏教の一派があります。幕府の保護を受けて武士層を中心に広まり、座禅などの修行を重視したこの宗派の名称として適切なものを選んでください。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 臨済宗
 2. 浄土宗
 3. 時宗
 4. 浄土真宗
- 問2 鎌倉時代の将軍と御家人の結びつきは、将軍が領地を保証・提供する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係によって成り立っていました。元寇において、命がけで防衛戦に従事した御家人が、その後幕府に対して強い不満を抱くようになった最大の理由はどのようなものですか。 (2022年 島根公立入試 類似)
1. 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから
 2. 元軍との戦いよりも貿易の継続を優先した幕府が、恩賞を支払うための予算をすべて外国との取引に回したから
 3. 多くの御家人が幕府の出陣命令を無視して戦いに参加しなかったため、幕府が制裁として所領を没収したから
 4. 幕府が元軍と密約を結び、戦いに貢献した武士ではなく、降伏した元軍の将軍たちに日本の領地を与えたから
- 問3 1221年に後鳥羽上皇が幕府を倒そうと兵を挙げた「承久の乱」に際し、北条政子が御家人たちに対して行ったこととして、最も適切な説明はどれか。 (2024年 新潟県公立入試 類似)
1. 源頼朝が武士に与えた「御恩」を強調して演説し、幕府側の団結を促した。
 2. 朝廷との対立を避けるため、執権の地位を後鳥羽上皇に返還することを提案した。
 3. 武力での抵抗を諦め、御家人たちに新しい領地を与えて地方へ逃亡させた。
 4. 自ら武装して戦場に立ち、京都の軍勢を圧倒する戦果を挙げた。
- 問4 鎌倉時代、幕府が禅宗を保護・推奨した主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 和歌山公立入試 類似)
1. 座禅によって自ら悟りを開こうとする厳しい修行が、当時の武士の気風に合致していたから。
 2. 阿弥陀如来を信じるだけで救われるという教えが、戦乱に疲れた武士たちに安心を与えたから。
 3. 題目を唱えることで国家の安泰を願う思想が、幕府の統治方針と一致していたから。
 4. 僧兵を組織して軍力を蓄えることで、幕府の勢力拡大を支援することが期待されたから。
- 問5 鎌倉時代に成立した『平家物語』の特徴と、その文化的な背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2021年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 平氏の繁栄から滅亡までの過程を描いた軍記物語であり、文字が読めない人々に琵琶法師の語りを通じて広く普及した。
 2. 天武天皇が律令国家の正当性を示すために編纂させた歴史書であり、坂上田村麻呂の功績を記している。
 3. 聖武天皇が建立した国分寺で、僧侶が仏教の経典とともに暗唱するために作成された叙事詩である。
 4. 律令国家から武家社会への移行を批判し、貴族による政治を再興させることを目的として書かれた政治書である。
- 問6 鎌倉時代に宋から伝えられた、座禅を組む修行によって自らの力で悟りを開こうとする仏教の宗派を何というか、次の中から名称を選びなさい。 (2023年 徳島公立入試 類似)
1. 禅宗
 2. 浄土宗
 3. 日蓮宗
 4. 浄土真宗
- 問7 1185年に、現在の山口県下関市にある壇ノ浦で行われた、源氏と平氏の一連の争いの最後となった合戦を何といいますか。 (2023年 鳥取公立入試 類似)
1. 壇ノ浦の戦い
 2. 屋島の戦い
 3. 一の谷の戦い
 4. 関ヶ原の戦い
- 問8 鎌倉時代に中国から伝えられた仏教の一派で、座禅によって自らの力で悟りを開こうとする教えを何といいますか。この宗派は、修行による精神修養を重んじる性質から武士に好まれ、幕府の厚い保護を受けて中世の武家文化に大きな影響を与えました。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
1. 禅宗
 2. 浄土宗
 3. 浄土真宗
 4. 法華宗
- 問9 武士による支配が次第に広がり、東アジア世界との交流が盛んに行われた中世の社会において、鎌倉幕府がその支配権を拡大させた背景について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2026年 福岡公立入試 類似)
1. 朝廷側の勢力から土地を取り上げ、家臣である御家人を地頭に任命して、現地の管理や徴税を担わせる仕組みを広げた。
 2. 諸国に守護大名を配置し、各地域の行政権と徴税権のすべてを幕府が一括して管理する中央集権体制を確立した。
 3. 有力な農民を御家人として組織し、朝廷の許可なく全ての荘園を没収して武士の私有地とする法令を施行した。
 4. 大陸との貿易利益を背景に、各地の国司をすべて廃止して、幕府が直接任命した役人による直接統治を開始した。
- 問10 鎌倉時代から江戸時代まで続いた、主君が家臣に土地の支配権を保障し、家臣が軍役を果たすという仕組みの目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 広島公立入試 類似)
1. 家臣に経済的な基盤を保障することで、忠誠心を引き出し、安定した軍事力を確保するため
 2. 土地の売買を自由化することで、農民の納税意欲を高め、国家の財政を安定させるため
 3. すべての土地を天皇が所有するものとし、家臣を地方官として派遣して全国を支配するため
 4. 商人の経済力を利用して武器や兵糧を調達し、外国の侵略を未然に防ぐ体制を作るため
- 問11 鎌倉時代に制定された御成敗式目（貞永式目）の背景とその特徴について述べた文として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。 (2016年 和歌山公立入試 類似)
1. 朝廷の律令をそのまま武士に適用させ、貴族社会と同じ基準で裁判を行うために作られた。
 2. 承久の乱のあと、武士の勢力が広がる中で急増した領地争いを、公平に裁く基準として作られた。
 3. 守護の権限を大幅に拡大し、全国の荘園の年貢をすべて徴収できるようにするために作られた。
 4. 徳川家康が豊臣氏を滅ぼしたあと、全国の大名を統制する目的で作られた。
- 問12 鎌倉時代の社会情勢を背景とした、僧侶と民衆の対話について考えます。民衆が「これまでの仏教は文字が読めない私には遠い存在だったが、新しい教えは日々の暮らしの中でも実践できる」と語った場合、その背景にある鎌倉新仏教の共通した特徴として適切なものはどれですか。 (2017年 佐賀公立入試 類似)
1. 特定の修行に専念すれば誰でも等しく救われるという、民衆にとって信仰しやすい教えであったこと
 2. 加持祈祷によって病気を治したり、災いを取り除いたりすることを最大の目的としたこと
 3. 貴族のみが知ることを許された特別な儀式を、一般公開して体験させたこと
 4. 救済を受けるための条件として、まず経典をすべて暗記することを求めたこと

答え合わせ・解説

問1	答え 1 臨濟宗	栄西が宋から伝えたのは臨濟宗です。鎌倉時代には日宋貿易を通じて新しい仏教が日本に流入しましたが、臨濟宗は特に幕府との結びつきを強め、後の五山文化の発展にも寄与しました。浄土宗は法然、浄土真宗は親鸞、時宗は一遍が開いた宗派であり、これらは念仏を唱えることで救われるとする教えで、禅宗とは特徴が異なります。
問2	答え 1 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから	鎌倉幕府の支配体制は「御恩と奉公」という双方向の契約で成り立っていました。通常、国内の乱などでは敗者から没収した土地を恩賞（領地）として配分できましたが、元寇は外国を追い返す防衛戦であったため、戦勝しても奪える土地がありませんでした。多額の戦費を自ら負担して戦った御家人に対し、幕府が十分な報酬を与えられなかったことが、幕府の権威を失墜させる決定的な要因となりました。
問3	答え 1 源頼朝が武士に与えた「御恩」を強調して演説し、幕府側の団結を促した。	承久の乱が起きた際、朝廷（上皇）に弓を引くことに迷う御家人に対し、北条政子は「亡き頼朝公の恩は山よりも高く、海よりも深い」と演説を行いました。この言葉により、御家人たちは幕府側として戦う決意を固め、結果として幕府の勝利と執権政治の安定につながりました。
問4	答え 1 座禅によって自ら悟りを開こうとする厳しい修行が、当時の武士の気風に合致していたから。	鎌倉時代に中国（宋・元）から伝えられた禅宗は、自らを厳しく律する座禅の修行を重視しました。この性質が、当時の武士が尊んだ潔さや忍耐、自己鍛錬といった精神的気風と深く結びついたため、北条氏をはじめとする鎌倉幕府の有力者によって厚く保護されました。他の新仏教が「信じること（他力）」を重視したのに対し、禅宗は「自らの力で悟る（自力）」という側面が強いのが特徴です。
問5	答え 1 平氏の繁栄から滅亡までの過程を描いた軍記物語であり、文字が読めない人々にも琵琶法師の語りを通じて広く普及した。	『平家物語』は「祇園精舎の鐘の声…」で始まる、平氏の興亡を描いた軍記物語です。鎌倉時代、視覚に障害のある琵琶法師たちが、琵琶の伴奏に合わせてこの物語を語り歩く（平曲）ことによって、武士や民衆の間に広く浸透しました。これは、当時の仏教的な無常観や武士の生き様を反映した武家文化の代表例です。
問6	答え 1 禅宗	鎌倉時代には、社会の混乱の中で民衆や武士を救済するための新しい仏教（鎌倉新仏教）が誕生しました。その中でも、自力で悟りに到達することを目指すこの教えは、栄西が伝えた臨濟宗や、道元が伝えた曹洞宗を合わせた総称として用いられます。
問7	答え 1 壇ノ浦の戦い	山口県下関市にある壇ノ浦は、源平合戦の最終的な決戦地です。この戦いで源義経率いる源氏軍が平氏を滅ぼしたことにより、長年にわたる源氏と平氏の争いに終止符が打たれました。この勝利によって源頼朝による武家政権の樹立が確実なものとなり、日本は中世という新しい時代へと踏み出すことになりました。
問8	答え 1 禅宗	鎌倉時代に栄えた新しい仏教のうち、座禅を通じて自己を見つめ直し、自力で悟りに達しようとする教えが禅宗です。この「自力」による厳しい修行のあり方が、実力を重んじ精神的な強さを求める武士の気風に合致しました。鎌倉幕府だけでなく室町幕府も禅宗を厚く保護し、寺院の序列を定めるなどして政治・文化の両面で深く結びつきました。
問9	答え 1 朝廷側の勢力から土地を取り上げ、家臣である御家人を地頭に任命して、現地の管理や徴税を担わせる仕組みを広げた。	中世の日本では武士による支配が拡大していく過程で、幕府は地頭の任命という手段を用いました。本来、土地の管理権や徴税権は貴族や寺社が持っていましたが、幕府が自身の御家人を地頭として送り込むことで、実質的な支配権を武士の手に移していきました。これが、後の武士社会の基盤となりました。
問10	答え 1 家臣に経済的な基盤を保障することで、忠誠心を引き出し、安定した軍事力を確保するため	武士は「一所懸命」という言葉に象徴されるように、自らの土地を命がけで守る存在でした。将軍や大名は、その土地の支配を公認（安堵）するという強力な特権を与えることで、家臣たちを自身の軍事組織の中に組み込み、政権や領国の安定を図りました。これは律令国家の公地公民制とは対照的な、私的な契約に基づく社会構造です。
問11	答え 2 承久の乱のあと、武士の勢力が広がる中で急増した領地争いを、公平に裁く基準として作られた。	承久の乱によって幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、各地で武士と荘園領主、あるいは武士同士の土地トラブルが急増しました。北条泰時は、武士に馴染みの薄い朝廷の律令ではなく、武士独自の慣習を明文化することで、誰もが納得できる公平な裁判を行おうとしました。これがのちの武家法の規範となりました。
問12	答え 1 特定の修行に専念すれば誰でも等しく救われるという、民衆にとって信仰しやすい教えであったこと	鎌倉新仏教の各宗派は、念仏、題目、座禅といった、一つの作法を徹底して行うことを強調しました。これは、当時の戦乱や飢饉によって精神的な救いを求めている人々にとって、極めて「わかりやすい」提示でした。旧来の仏教が「学問」や「儀式」を重んじて貴族層に特化していたのに対し、新仏教は日常生活の中で「実行しやすい」修行を提示することで、爆発的に広まったという歴史的背景があります。